

21世紀COEプログラム委員会における事後評価結果

(総括評価)

設定された目的は十分達成された

(コメント)

拠点形成計画全体については、本プログラムの成功のために、大学をあげて積極的支援を展開し、小規模であるが専門性に特化した大学の長所が十分に活かされていると評価できる。また、日本の漢文学が日本の文化形成にもたらした意味は極めて大きいにも関わらず、日本文学においても、日本学においても積極的な研究対象にならず、社会一般の関心の低さから、衰退の道をたどっていたが、大学の努力により、日本漢文学という新たな地平が切り開かれたことは高く評価できる。

人材育成面については、本プログラムが若手漢文学研究者の育成に持つ意味は極めて大きい。また、多くの若手研究者は極めて質が高く、日本漢文学の持つ意味を十二分に理解した論文業績を多数発表していることは、高く評価できる。

研究活動面については、日本漢文関連文献データベースの作成、機関誌「日本漢文学研究」の発刊は、今後本プログラムの継承発展のための確かな基礎になると思われ、その努力は評価できる。また、本プログラムを通じ、日本の漢文学者が今までなし得なかった、中国学とは異なる日本漢文学という新しいジャンルが、啓蒙活動や国際会議を通じて、国内外に広く知られ、韓国、ベトナムなど独自の漢文世界の研究者との交流の機会も、積極的に持たれたことは評価できる。しかしながら、個別の研究業績では、これまでの個人的、たこつば的な研究が大きく変わったようには見受けられず、今後の発展のため、ジャンルを越えた討論による、いわば「日本漢文学論」とでも言うべき理論的作業が期待され、単なる意見の交換ではない、実りある外国人研究者との共同研究の展開も期待される。

補助事業終了後の持続的展開については、大学は既に日本では漢学の拠点としての位置を有していたが、本プログラムにより、日本漢文学という領域での世界的拠点に成長したと評価できる。今後、本領域が本拠点によって、継承発展されることは、事業期間中の出版、国際会議活動の成果から、大いに期待される。